

EMT981 再生系の再構成(16)

－ハイドンを聴く(7)－

1. はじめに

前報(3)において EMT981 から Truphase を経て 300B アンプまでのバランス伝送が実現した機会に、手持ちの CD を聴き直していくことにしました。今回も、しばらく聴いていないハイドンの作品を聴いていきます。

2. EMT981 の試聴方法

EMT981 の再生では、前報(7)と同様に前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(*)→TruPhase→.300B

* : GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

古い録音で定位などに違和感が感じられるときは TruPhase で位相を反転します。

再生する CD はハイドンの弦楽四重奏曲です。

The Royal Philharmonic Collection 222838-203

ハイドン 弦楽四重奏曲 No.77 作品 76 No.5

弦楽四重奏曲 No.63 作品 64 No.3

弦楽四重奏曲 No.1 作品 1 No.1

The Royal Philharmonic Chamber Ensemble

Live Notes WWCC-7731

ハイドン 弦楽四重奏曲 作品 20-4<Lark>

弦楽四重奏曲 作品 76-2<Fiftt>

ロータス弦楽四重奏団

3. EMT981 の試聴結果

The Royal Philharmonic Chamber Ensemble 盤は、1994 年の録音で **Royal Philmarmony** の選抜メンバーによる演奏のようで、すっきりとした音のオーソドックスで伸びやかな演奏です。弦楽四重奏曲 No.1 は、あまり聴く機会がないものですが、完成度は高いという印象です。

ロータス弦楽四重奏団盤は、2012 年の録音で、演奏会で求めてきたものです。透明度が高く、すっきりと切れ味の良い演奏です。なお、ハイドンの弦楽四重奏曲 2 曲の他にベートーヴェンの弦楽四重奏曲も収録されています。

4. まとめ

クロック入力した EMT981 からのバランス接続の効果で、二つの盤ともデジタル

臭さを感じないすっきりとした艶やかな音が楽しめます。

以上